

## 第20回

# 出土文化財展

日時：令和6年6月19日(水)～6月30日(日)

場所：掛川市立中央図書館 1階生涯学習ホール

本発掘調査事業

なかはらいせき

### — 中原遺跡 (第11次) —

- 1 位置 掛川市高田
- 2 調査期間 令和5年10月～12月
- 3 調査面積 723㎡
- 4 内容

中原遺跡は、縄文時代中期(約5,500年前)、弥生時代後期(1,800年前)から古墳時代前期(1,700年前)頃の遺跡として知られています。遺跡地内で建物の建設が計画されたため、記録保存のための発掘調査を実施しました。

調査では、縄文時代中期の大型土坑が1基、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡1棟、小穴などが確認されました。

大型土坑からは、土器のほか石鏃、石匙などの石器が出土しています。竪穴住居跡は、長径3.0m程度の大きさで、中央部には煮炊きをした炉が確認されました。掘立柱建物跡の大きさは、東西方向約2.5m、南北方向約3.0mの柱間1間×1間でした。



縄文時代中期の大型土坑



竪穴住居跡



掘立柱建物跡

## 本発掘調査事業

# — 吉岡下ノ段遺跡 (第19次) —

- 1 位置 掛川市吉岡
- 2 調査期間 令和5年7月～12月
- 3 調査面積 1,200 m<sup>2</sup>
- 4 内容

吉岡下ノ段遺跡は、縄文時代中期(約5,500年前)、弥生時代後期(1,800年前)から古墳時代前期(1,700年前)と戦国時代(約500年前)頃の遺跡として知られています。

遺跡地内で茶園の造成が計画されたため、記録保存のための発掘調査を実施しました。

調査では、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡が9軒、掘立柱建物跡1棟と多数の土坑、小穴などが発見されました。

竪穴住居跡は長径約4.0m～5.0mの楕円形と長径約4.0m～7.0mの隅丸方形のものが確認されました。掘立柱建物跡は、柱間が1間×1間であり、倉庫として利用されたと考えられます。

また、江戸時代のかわらけが数個体固まって出土しました。遺構の輪郭については後世の攪乱の影響もありハッキリしませんでした。部分的に焼土が混じっている箇所があったことから、江戸時代の土坑墓の可能性も考えられます。

出土遺物は、弥生時代後期から古墳時代前期の土器が大半でした。その他に遺構に伴わない形で旧石器時代の尖頭器、縄文時代の石器、奈良時代の須恵器等が見つかっています。



竪穴住居跡



掘立柱建物跡



かわらけの出土状況



旧石器時代の尖頭器(頁岩製)

## 新規所蔵史料

新たに掛川市で所蔵することとなった史料を紹介します。

### —『<sup>ち そ かい せい した しら べ ち ょう</sup>地租改正下調帳』、『<sup>ほん き じ っ さい こう か じ ょう</sup>半季実際考課状』—

#### 内 容

『地租改正下調帳』は、松ヶ岡当主である山崎千三郎の所有する土地の状況を、明治8年(1875)段階で一筆ごと整理したもので、当時の掛川地域の土地所有状況が詳細に記録されている史料です。

『半季実際考課状』は、山崎千三郎が設立した掛川銀行について、明治17～18年(1884～1885)の各支店の入金高出金高などがまとめられた営業報告書です。この頃掛川銀行は、東京支店や福島県三春出張店を設置するなど、活発に金融活動を展開しています。



『地租改正下調帳』(明治8年)



『半季実際考課状』(明治17～18年)

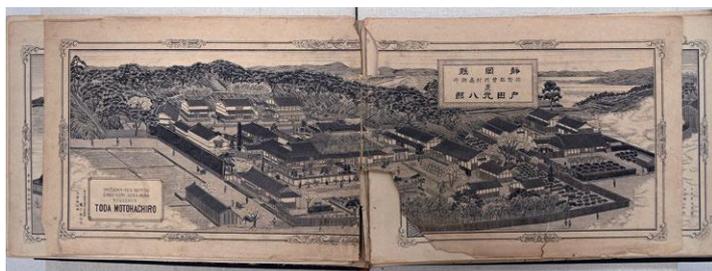
### —『<sup>だい に ほん はく らん ず</sup>大日本博覧図』・<sup>どう ばん</sup>銅板—

#### 内 容

『大日本博覧図』は、関東を中心とした地域の名勝旧跡・寺社、豪農豪商の邸宅・庭園、会社・工場、学校の校舎など様々なものを掲載した明治時代半ばの銅版面集です。

今回展示の史料は、明治25年(1892)に発行されたもので、静岡県内で228軒、現掛川市の範囲で25軒の邸宅等が掲載されています。

銅板は博覧図印刷のための原板であり、いずれも戸田元八郎氏の子孫の方が代々保管していたものを、令和5年度に掛川市に寄贈いただきました。



大日本博覧図 曾我村高御所 戸田元八郎宅



戸田元八郎宅印刷のための銅板

## 史跡整備事業

# — 史跡和田岡古墳群 しせきわだおかこふんぐん 吉岡大塚古墳 よしおかおおつかこふん —

- 1 位置 掛川市高田・吉岡
- 2 整備期間 平成29年8月～令和5年11月
- 3 内容

史跡和田岡古墳群の一つである吉岡大塚古墳は、発掘調査の成果を基に整備について検討され、平成29年度から整備工事に着手、令和5年11月に完成しました。

史跡整備に向けた発掘調査では、全長54.6m、後円部直径41.3m、高さ7mで、墳丘には葺石ふきいしが施され、円筒埴輪えんとうはにわ、朝顔形埴輪あしががた、壺形埴輪つぼがたが並べられていたことがわかりました。

今回の整備では、墳丘の南側を古墳築造時の姿に復元し、葺石、円筒埴輪、朝顔形埴輪を設置、北側は現況の形状のまま盛土を行いました。葺石は、調査の結果、原野谷川の石を使用していたことがわかり、今回の整備でも原野谷川の石を用いました。

※史跡和田岡古墳群：古墳時代中期に築かれた古墳群。原野谷川が形成した河岸段丘上に位置する。4基の前方後円墳と1基の円墳に埋葬された人物は、原野谷川中流域を治めた有力者と推定される。平成8年、国の史跡に指定。



平成29年整備工事着手前 西から



平成30年墳丘盛土工事の様子



令和5年整備工事完成 南西から



復元された葺石と埴輪